

生命から見直す現代社会

— 日本文化を活かす

「健康」や「環境」など大切

DNA研究から始めて
ほぼ半世紀「生きもの」
について考えてきた。今、
地球環境問題や人心の荒
廃が課題になっている
が、これは人間が生きも
のであることを忘れたが
故に起きているという共
通点を持っている。
文明を持つのは他の生
きものにはできない人間
らしさであり、これを否
定するつもりはない。け
れども、市場原理や科学
技術を基本に置いた文明
は、自然や生命を破壊す
る。その中で人間の外の
破壊が地球環境問題、内
の自然(身体と心)の破

長崎大リレー講座 寄稿⑤

JT生命誌研究館館長

中村 桂子氏

壊が人心荒廃である。
20世紀は、人間も機械
としてとらえる「機械と
火の時代」だった。エネ
ルギーを大量に使い、便
利なものを作った。便利
は生活者にとってありが
たい。だが、便利とは「早
くできる」「手が抜ける」
「思い通りにできる」と
いうことであり、生きも
のはこれに合わないので
ある。今やここが問題に
なっている。

経済を成り立たせるとい
う順序にするのである。
前の流れは「権力」を生
み、後者は「生きる力」
を基本とする。これが日
本の針路であり、日本が
発信すべきことだと思
う。

「源氏物語」には自然
が見事に挿入され、同じ
ころ書かれた「堤中納言
物語」には、毛虫を愛す
る「虫愛する姫君」とい
う話がある。この「愛づ
る」という言葉は「ラブ」
ではなく、本質を理解し
たうえで、の知を基にした
愛だ。私は「愛づる」を
日本の針路の基本として
提案したい。
政治でも経済でも、よ
く観察して実体を考え、
そこに愛や素晴らしさを
感じ、上で、ものごとを
進めていく。そうするこ
とで、生きものである「ヒ
ト」を文明を持つ「人間」
との兼ね合いがとれるの
ではないかと期待してい
る。

そこで、21世紀は「生
命と水の時代」を基本に
置きたい。経済、技術、
生命でなく、生命を支え
る技術を開発し、それで

「ここで大切なのは「食
べ物(農業・水産業)」「
「健康(医療)」「住居
(林業)」「心と知(教
育)」「環境、とくに水」
の分野だ。いずれも20世
紀には「遅れている」「う
まくいかない」「問題だ
らけ」とされてきた。け
れども、生きることから
考えると最も大事な分野